

P1-045

学童期における家族の関係性および家庭内の習慣の規則性(Family Routines)と児の社会適応との関連

細川 陸也¹、桂 敏樹^{1,2}、平和也¹

¹京都大学、

²明治国際医療大学

【目的】

児の心理社会的な健康を保つためには、児への直接的なかかわりだけでなく、家族の関係性や家庭内の習慣など児を取り巻く家庭環境を整えることも重要である。本研究は、学童期における家族の関係性、家庭内の習慣の規則性 (Family Routines) と児の社会適応との関連を明らかにすることを目的とした。

【方法】

2017年、愛知県内の小学3年生(8-9歳児)を対象とし、その養育者へ自記式質問紙調査を実施した。主な調査項目として、家族の関係性を Family Relationships Index (e.g., 凝集表出性: 私の家族はお互いに助け合い支え合っている、葛藤性: 私の家族はお互いに感情を表に出さないことが多い、等の12項目)、家庭内の習慣の規則性を Family Routines Inventory (e.g., 親は子どもと会話する時間を1日のどこかに設けている、仕事をしている親は帰宅後子どもと遊ぶ時間を設けている、家族には夜静かに話したり楽しんだりする団らんの時間がある、週末または休みの日は家族全員で一緒に夕食を食べている、等の25項目)、児の社会適応を Strength and Difficulty Questionnaire を用いて尋ねた。

【結果】

有効回答の得られた児717名を分析対象とした。家族の関係性、家庭内の習慣の規則性と児の社会適応との関連を検証するため、家族の関係性(凝集表出性、葛藤性)を Predictor、家庭内の習慣の規則性を Mediator、児の社会適応(外在化問題、内在化問題、向社会性)を Criterion variable として、パス解析を実施した。その結果、凝集表出性が高い家庭ほど、家庭内の習慣の規則性が高く、児の向社会性が高く問題行動が低い傾向が示された。

【考察】

家庭内の習慣の規則性は、日常生活におけるストレスから児の心身の健康を守る可能性があり、また、家族の習慣を通して家族間で相互作用が生じ、対人スキルや社会性が生まれ、社会適応力が形成される可能性もある。本結果より、家族の凝集表出性は、家庭内の習慣の規則性 (Family Routines) を安定させ、児の社会的能力の向上、問題行動の低減に寄与する可能性が示唆された。